

# 配合シンポジウム初めての大阪開催！！

第254回ゴム技術シンポジウム

## すぐに活用できるゴム配合技術の基礎と応用 ～理論から応用まで、配合の疑問に応えます～

主催：日本ゴム協会研究部会 配合技術研究分科会

協賛：日本化学会、高分子学会、自動車技術会、石油学会、繊維学会、日本材料学会、日本接着学会、

(予定) 日本機械学会、日本合成樹脂技術協会、日本レオロジー学会、日本複合材料学会、

プラスチック成形加工学会、マテリアルライフ学会、日本トライボロジー学会 (順不同)

今回のシンポジウムではゴムの配合に役立つ原材料や配合技術について紹介します。タイヤ用材料、架橋樹脂粉砕物による補強、EPDM、加工助剤、さらに加硫反応の解析について取り上げます。実際のゴム配合設計の参考になるような講師陣をお招きして企画しました。プログラムの最後には講師の方々とディスカッションする時間も用意しております。多数のご参加をお待ちしております。

日時：2019年3月7日(木) 9:45～16:50

場所：大阪科学技術センター・701号室(大阪市西区靱本町1-8-4 TEL:06-6443-5316)

受講料：日本ゴム協会会員・協賛団体会員23,760円、日本ゴム協会学生会員5,400円

※受講者が日本ゴム協会の正会員でない場合でも、ご所属の会社が法人としてゴム協会会員(賛助会員)の場合は2名様まで会員扱いの受講料で受付けます。

シニア制度対象会員 11,880円(60歳以上の正会員) 会員外 32,400円

受講料には消費税・テキスト代を含みます。

申込方法：弊会ホームページ<http://www.srij.or.jp/>よりお申込みください(定員80名)。

送金方法：銀行振込(三井住友銀行 日比谷支店 普通No.7100847 一般社団法人日本ゴム協会)。振込み手数料は受講者側でご負担ください。一度ご入金された受講料は返金いたしかねますのであらかじめご了承ください。

問合せ先：一般社団法人 日本ゴム協会 第254回ゴム技術シンポジウム係

(〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-26 東部ビル1階)

TEL 03(3401)2957 FAX 03(3401)4143 E-mail: kenkyuubukai@srij.or.jp)

	演 題	講 師・座 長
9:45～9:50	開会のあいさつ	配合技術研究分科会主査 鹿久保隆志 【座長】(株)ブリヂストン 鈴木 英寿
9:50～10:50	タイヤ用ゴム配合に含まれる軟化剤の働きとタイヤ性能への影響 種々軟化剤のタイヤへの活用事例やそのメカニズム解析を中心に報告する。	住友ゴム工業(株) 馬淵 貴裕氏 【座長】(株)白石中央研究所 杉田 智明 (株)アシックス 澤田 大輔氏
11:00～12:00	架橋樹脂粉砕物複合ゴムの補強メカニズムに関する研究 シューズ廃材の再利用を目指し、ゴム用補強材として活用した例について述べる。	【座長】 鬼怒川ゴム工業(株) 宇都木宏之 住友化学(株) 酒井 貴史氏
12:50～13:50	機能性を付与したEPDMと実用例の紹介～低温性改良EPDMを中心に～ 低温性改良EPDMを中心に、各種機能性を付与したEPDMの実用例を報告する。	【座長】(株)明治ゴム化成 榊原 正明 川口化学工業(株) 大貫 毅氏
14:00～15:00	ゴムの加工と加工助剤 ゴムの加工に関わる薬品の使い方について具体例をもって説明する。	【座長】 元・横浜ゴム(株) 石川 泰弘
15:10～16:10	加硫反応の新反応機構～少し判ったこと、まだまだ遠い全貌解明への道～ イソプレンゴムのCBS系加硫について、XAFS測定やFT-IR測定、DSC測定、レオロジー測定、および計算化学手法を組み合わせ得られた結果をもとに、複雑な加硫反応機構に関して少し判ったことを紹介する。	京都工芸繊維大学 池田 裕子氏 【司会】三新化学工業(株) 立畠 達夫 配合技術研究分科会副主査 佐藤 有二
16:15～16:45	講師による質疑応答	
16:30～16:40	閉会のあいさつ	

※プログラムは一部変更になる場合がございます。

☆お申込みはホームページ<http://www.srij.or.jp/>からお願いします。